

研究所だより

第348号
2015年4月8日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

～春爛漫 平成27年度スタート～

風に吹かれ舞い散る桜の花びらが、空を、地面を、水面を、桜色に染めるなか、平成27年度の始業式、入学式が執り行われたことと思います。子どもたちの元気な声が学級やグラウンドを駆け巡っていることでしょう。

新年度を迎え、子どもも教師も夢や希望を持ち、やる気に満ちあふれています。しかし、不安と期待が入り交じり、戸惑いもあるかと思えます。教師集団がしっかりと子どもたちを支え、楽しく、喜びのある集団づくり・授業づくりに邁進して行くことを願っています。

<教育センター職員の紹介>

この度の異動で新しく4名の職員を迎え入れ、総勢10名でスタートしました。本年度もよろしくお願いいたします。



土佐清水市教育センター職員一覧

教育センター	所長	弘田 条	主管全般
	所長補佐	萬 知栄	主管全般補佐、庶務、予算等
	教育研究所	勝間 康人 池 恵美 井上 志保	研究所主管全般 教育支援、調査研究、教育研究集会、情報教育 不登校児童生徒支援、教育相談、研究所庶務全般
	適応指導教室	泥谷 人美	不登校児童生徒支援、教育相談、あすなる教室
	補導センター	岩井 崇通 山崎 岳	少年補導・健全育成
SSW	兼松 和典 出口 里奈	教育相談全般 (SSW = スクールソーシャルワーカー)	

教育センターでは、教育研究所、適応指導教室、補導センター、SSWの4部署が横の繋がりを密にし、連携を保ちながら、児童生徒を取り巻く教育環境の整備、教職員・保護者等の教育相談体制を確立し、様々な教育分野に対応していきます。学校、先生方には大いに活用、利用していただければ幸いです。できる範囲の協力と支援をさせていただきます。

<着任挨拶～よろしくお願いいたします～>

○弘田 条ひろた じょう 教育センター所長兼補導センター所長
今回の異動により、教育センター所長及び少年補導センター所長に配置になりました弘田 条と申します。

異動前は、環境課での太陽発電所建設、学校教育課では清水中学校建設、生涯学習課では放課後子ども教室推進事業など取り組んで参りました。私自身も以前は、三崎地区での三益親の会などで、夜間補導や親子のつながりなど、実践して参りました。市民のみなさまのご指導ご協力をよろしくお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

○勝間 康人かつま やすひと 主任研究員

4月1日から主任研究員としてお世話になっております勝間康人と申します。各学校や関係機関と連携し、側面から学校、児童生徒、保護者等へ適切な支援ができるよう全力で取り組みたいと思います。よろしくお願いいたします。

○岩井 崇通いわい たかみち 補導教員

今年度より、少年補導センターでお世話になります清水中学校所属の岩井崇通です。学校現場を離れての勤務は初めてになります。何かとご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、よろしくお願いいたします。

○山崎 岳やまさき たく 補導専門員

4月より補導専門員として補導センターに勤務する山崎 岳です。若干22歳ではありますが、若いからこそできるアドバイスもあると思います。右も左も分からず、先輩方に指導して頂きながらにはなりますが、一年間しっかりと努めあげたいと思います。よろしくお願いいたします。

☆楽しい学校・学級づくり

学校(学級)は、子どもたちにとって集団生活の基盤です。自分と心の通い合う仲間がいる。その事が学校生活を充実したものにします。一人ひとりがかけがえない存在として尊重され、安心して生活する権利を持っていることに気づかせ、心の通い合う温かい人間関係を育てていくことが大切です。そうした面で教師は、児童生徒の集団を教育していく宿命にあります。集団を活用できる素晴らしい仕事をしています。その集団づくりが教師の仕事の中心であり、集団づくりができるかどうかの仕事の成否も左右します。良い集団づくりをして、個々の児童生徒を良くして、更に集団が良くなって、個々の児童生徒が更に良くなる良好な環境を作り出すことが大切です。

学校生活で、子どもたちが一番長く過ごすのが授業の時間です。この時間が満たされていること(わかり、できて、使えて、学び合える)が子どもたちの喜びとなります。教師の授業力向上とより良い集団づくりは車の両輪です。両輪がうまくかみ合えば互いに相乗効果を発揮していきます。子どもと共により良い集団づくり、授業づくりに取り組んでいきましょう。

☆家庭訪問で子どもの姿をつかむ

～最初の出会いを大切に～

家庭訪問は、「家庭での子どもの様子や保護者の教育要求を聞いて、今後の教育に役立てるために行う。」という点をしっかりとおさえておく必要があります。

具体的におさえるポイントとして

- 子どもの育っている教育環境から子どもの姿をつかむ
- ・災害、防災等の緊急時に対応するために、子どもの家の所在地を確認する。
- ・子どもの生活環境を知る。(地域の特性、通学路や危険箇所、家庭学習、遊び場、家事分担など)
- ・保護者の子どもについての考えなどを率直に聞く。(育児観、教育観)
- ・家庭における子どもの長所、短所を知る。(親の子ども観など)
- ・保護者と教師の情報交換、相互理解を図る。(子どもの病気、怪我、進路、友だち関係など、学校では話せないことなども話し合う場になる。)
- ・保護者と子、教師の信頼関係を築く。
- ・保護者からの学校や担任への期待や要望を聞き、収集する。

最初の出会いですから、まずは保護者の話を聞く(傾聴)ことです。話を受け止めることから良好な関係(パートナー)ができてきます。話の中で「それは…」「けれど…」と、疑問を呈したり、否定的な言葉が出ると話は進みません。保護者の悩みに耳を傾け、共感的理解者になることから、共同の歩みが始まります。その点を配慮しながら家庭訪問に臨んではいかがでしょうか。